

(様式1・小学校用①)

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田小学校
(令和2年2月3日作成)

1 学校教育目標 進んで学ぶ子 やさしい子 たくましい子	
2 重点目標・努力目標 ○教職員一人ひとりの熱意・誠意・創意を結集し、笑顔かがやく学校づくりを推進する。 ・学習指導の充実 ・豊かな心の育成 ・健康でたくましい児童の育成 ・生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 ・安全・安心で開かれた学校づくり ・幼保小中を一貫した教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○学校チーム力の向上による教育活動の充実 ○校内研修を通じ指導における共通理解を深めたことによる授業改善と基礎学力の向上 ○計画的・意図的で、児童一人ひとりを大切にする生徒指導・教育相談体制の充実 課題 ●両新田中学校区3つの実行（明るいあいさつ・しっかり清掃・守ろう時間）の徹底 ●15年間の連続した学びを支える教育課程の工夫改善 ●コミュニティ・スクール設置に向けた体制整備

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○自校の実態と課題をふまえた学校経営方針を繰り返し明示し、教職員が協働・協力して学校教育目標の実現を目指す学校づくりを推進した。 ○前年度の反省等を生かし行事・会議等の在り方を見直し、効果的・機能的に運営した。 ●教職員の負担の偏りがなく、適材・適所となる校務分掌組織の編成をさらに工夫すること。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○県学力向上パワーアップ事業を活用し、各学力・学習状況調査結果の分析から、学年・学級の課題を明確にし授業改善を行った。 ○国語科を重点教科として学力向上の校内研究を深め、基礎学力の向上につながった。 ●教師一人ひとりの強みを生かし、力が最大限に発揮されるよう人材育成を行うこと。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○危機管理マニュアルの改善、スクールゾーンの設置等、安全管理の徹底と事故の未然防止や迅速かつ適切な対応を積極的に進めた。 ●保健計画を見直し、家庭と連携してむし歯治療率向上を図るとともに、フッ化物洗口を実施し全校児童のむし歯予防を行うこと。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報管理規定等について、校内で共通理解を図り管理の徹底を行った。 ○ICT機器の有効活用に努め、児童の学習意欲を高めるための授業改善を進めた。 ●情報管理・施設設備管理マニュアル等の見直しを随時行い、適切に管理すること。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校・学年・学級だより等の内容を工夫し、教育方針や教育活動について積極的に発信し、家庭・地域との共通理解が深まるよう努めた。 ○PTA活動の工夫改善について随時話し合いながら協力して取り組むことができた。 ●地域の人材・施設を有効活用すること。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校区で幼保小中を一貫した教育のカリキュラムのすり合わせや具体的取組を共有したことにより15年間の円滑な接続が図られた。 ○教職員が部会を核として計画的・組織的に共通理解を深め、教育活動の充実につながった。 ●「両新田中学校区3つの実行」の指導の徹底。

草加市立両新田小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	15年間を通じた教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○授業時数を適切に確保した。学校や児童の実態を把握し教育計画を随時見直ししながら教育活動の工夫改善を行った。 ○教育目標の実現を目指す具体の取組について学校全体で共通理解を図り、協働して実践した。 ●15年間を見通した教育課程のさらなる充実。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○国語科を重点教科とした校内研修の成果を生かし、各教科において主体的・対話的で深い学びの視点を大切にした授業実践を積み重ね、基礎学力の向上につながった。 ●適切な評価・評定のための工夫・改善。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	B	○道徳の校内研修や全学級における道徳授業の公開等を計画的に行い、道徳の授業を中心として各教科等と関連させた指導の充実に努めた。 ●「考え議論する道徳」の視点に立った授業改善 ●家庭・地域と連携した児童の道徳実践力育成
	④外国語活動	- 指導計画の立案 - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 各教科、道徳教育との関連 - 中学校との連携	B	○外国語ルームを設置し、児童の学習意欲を高める学習環境づくりを行った。 ○A L Tを活用し外国語における児童のコミュニケーション能力を日常的に育むことができた。 ●中学校英語との円滑な接続に向けた取組の充実
	⑤特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 児童会活動	B	○児童会を主体としたあいさつ運動やいじめ撲滅の取組、日常的なペア学年交流等を計画的に実践し児童のより良い人間関係作りを行った。 ○自己有用感を実感できる学級経営を進めた。 ●児童の自治的能力を向上させる取組の充実。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫 - 地域の人材・物的資源の活用	B	○自校や地域の実態をふまえ年間指導計画を見直し、児童が実生活の中から課題を見つけ、探求的な学習に取り組めるよう工夫した。 ●地域人材や施設等の有効活用を位置付けた教育課程の編成。
	⑦生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、児童理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○児童一人ひとりをかけがえのない存在として大切にすることを根底において児童理解に努め、問題行動等の未然防止・早期発見・適切かつ迅速な解決に組織的・積極的に取り組んだ。 ●学校・家庭・地域とのさらなる連携強化。
	⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○中学校と連携し児童生徒が交流する機会を設けたことにより、児童が進路への関心・意欲を高めることにつながった。 ●児童一人ひとりの自立意識や職業観・勤労観をよりよく育むための学習内容の工夫改善。
	⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	B	○児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画・教育支援計画に基づき社会で自立できる自信と力を育む教育の充実に努めた。 ●通常学級に在籍する教育の支援を要する児童への共通理解と校内支援体制の充実。
	⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○司書教諭を中心として様々なアイデアを具体的な取組に生かし、魅力ある学校図書館づくりが進められたことにより、楽しみながら進んで読書をする児童の増加につながった。 ●意図的・積極的な読書活動計画の工夫改善による読書の習慣化と基礎学力の向上を図ること。
	⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - I C T機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○各学年の授業において、日常的にI C T機器やデジタル教材の有効活用が進められた。 ●教科書が新しくなることに伴うデジタル教材の入れ替え等を計画的に行い準備すること。 ●情報モラル教育の適切な指導を徹底すること。
	⑫人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○人権教育に関する校内研修を行い教員の人権感覚を高めるとともに、日常的に繰り返し指導することによって自他ともに大切にし互いに認め合える児童の育成を図った。 ●各教科等と関連させた全体計画の工夫改善。

草加市立両新田小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	- 基礎学力の定着 - 児童が主体的・対話的で深い学びを実感できる授業実践	B	○国語科の校内研修を中心として教職員の共通理解を図り全校で同一歩調で具体的取組を着実に進め、児童の変容につながってきた。 ○各学力・学習状況調査の結果を分析し、児童の実態と課題を明確にしたうえで課題解決の手立てを工夫したことにより、指導の質が高まり、全体的に児童の基礎学力が向上しつつある。 ●国語科は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力の伸びとして、学力・学習状況調査の結果に表れている。一方で、算数については、学年ごとの定着度や児童一人ひとりの個人差に開きがあり、国語と比較すると全体としての伸びが少なかった。児童のつまずきがどこにあるのかを見極め基礎学力の確実な定着と数学的思考力表現力を高める授業改善を進めていく。 ●中学校区で推進している家庭学習の充実について、家庭との連携を深め、主体的に学びを楽しむことのできる児童を育成していく。
	体力向上	- 体育的諸活動の充実 - 主体的に運動する児童の育成	B	○年間指導計画を見直し、学校行事等との関連をふまえ体育授業の充実を図った。 ○体育朝会の内容や運動委員会を中心とした休み時間における体育的活動を工夫し、日常的に体を動かすことを楽しめる児童の育成に努めた。 ●新体力テストにおいて課題が見られた「反復横跳び」「上体起こし」について、重点的に取り組み、全体の体力向上につなげていく。
	学校応援団の取組	- 児童の安心・安全確保のための取組の充実 - 読書活動の充実 - 学習支援等の充実	B	○正門前道路に新たにスクールゾーンが設置されるなど、家庭・地域の理解と協力を得て、児童の安全確保のための取組が推進された。 ○朝の読み聞かせや季節感のある掲示物の工夫等により環境が整備され、児童の読書活動がより豊かなものになった。 ●学校応援団の人材を十分に確保していくこと。それらの人的財産を教育活動に計画的に有効活用していくこと。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・「協働・協調」「信頼醸成」「変化・進化」等を合言葉に、全教職員が教育目標の実現を目指し、教育活動の充実を努めたことにより、児童が全校的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。
- ・幼保小中を一貫した教育や国語科における研究を軸として、校内研修体制が整備されていることにより、年度当初から計画的・組織的に教育実践が積み重ねられ、児童の変容につながっている。
- ・中学校区で共通理解を深め、課題を共有して統一した取組を日常的・意図的に進めることにより、幼保小中の円滑な接続が図られている。
- ・学校全体を学習面・安全面など様々な視点から適切に管理し、教育環境の整備に努めている。
- ・児童や保護者の思いや願いに寄り添いながら、意図的・積極的な生徒指導体制の充実を図り、児童一人ひとりを大切にする教育を推進するために機能する組織づくりが行われている。
- ・社会に開かれた学校づくりを進めるために、学校・学年・学級だよりや学校HPによる学校からの積極的な発信に努めるとともに、家庭・地域の声に耳を傾け、学校に寄せられる要望等に誠実に対応することで、学校教育への家庭・地域の理解と協力を得ることにつながっている。

6 次年度の改善策

- ・新学習指導要領が小学校において全面実施されることに向けて準備してきたことを学校全体で着実に実践していくことにより、自ら学ぶ意欲をもち、心身ともに健康で人間性豊かな児童を育成する。
- ・教職員一人ひとりの強みを生かし、最大限に力が発揮されるよう、バランスのとれた校内組織編制を工夫し、学校チーム力の向上を図る。
- ・中学校区で統一した学習規律の徹底や家庭学習の充実、読書活動の充実、さらには自校の児童の実態をふまえた意図的な授業改善を進めることにより、児童一人ひとりの学力を確実に伸ばすための取組を推進していく。
- ・両新田中学校が目指す子ども像の実現に向けて、15年間を見通した教育課程編成の見直しなどを行い取組の充実を図る。これまでの研究を土台として幼保小中を一貫した教育を推進するために、教職員間の共通理解を深めながら、計画的に取組を継続していく。
- ・次年度から設置される学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用し、学校と家庭・地域が互いに理解を深め、双方向に協力し合うことで、信頼される学校づくりを進めていく。

